
疫学

宮 井 信 行 教授

森 岡 郁 晴 教授

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

健康づくりを中心とした予防活動を行うには、有効性を科学的に評価することが必要である。この講義では、集団の健康状態の現状を科学的に把握する方法である疫学について、疾病頻度の測定、対象集団の選定、疫学研究と倫理、記述疫学や分析疫学などの研究方法に関する理論と手法を修得する。

【授業内容のスケジュール】**(担 当)**

1) 疫学総論	宮 井
2) 疾病頻度の測定 (有病率、罹患率、死亡率)	宮 井
3) 記述疫学研究	宮 井
4) 分析疫学研究(1) 生態学的研究・横断研究	宮 井
5) 分析疫学研究(2) コホート研究	宮 井
6) 分析疫学研究(3) 症例対照研究	宮 井
7) リスクとその比較 (相対危険、寄与危険)	宮 井
8) 介入研究	宮 井
9) 疫学研究とエビデンス	宮 井
10) 疫学的因果関係、信頼性と妥当性	森 岡
11) 誤差・偏りとその制御	森 岡
12) スクリーニング	森 岡
13) 臨床と疫学	森 岡
14) 疫学と倫理	森 岡
15) まとめ	森 岡

【評価】

受講態度(10%)、小テスト(10%)、筆記試験(80%)で総合的に判断する

【教科書】

授業時に資料を配付する (宮井担当回)

車谷典男、松本泉美 編「疫学・保健統計 看護師・保健師・管理栄養士を目指す」建帛社 2016 (森岡担当回)

【推薦参考図書】

大木秀一 著「基本からわかる看護疫学入門 第2版」医師薬出版株式会社 2012

木原正博 他訳「疫学—医学的研究と実践のデザイン」2010

田中平三、能勢隆之 編「はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第2版」南江堂 2010

【その他】

連絡先: miyain@wakayama-med.ac.jp (宮井)

moriokai@wakayama-med.ac.jp (森岡)

総合病態学

上 松 右 二 教授
水 越 正 人 教授
山 上 裕 機 教授*
山 田 宏 教授*
橋 爪 俊 和 非常勤講師

(通年) 3年次・必修

【概要・目標】

(概要) 急性期病態学・慢性期病態学 I で学んだ知識をもとに臨床実習に入り、急性化する緊急疾患、慢性期疾患の患者を実際に経験し、その診断と治療の知識を習得し、その疾病の病態を深く理解する。(オムニバス方式)

【授業内容・スケジュール】

- 1) ~ 3) 急性神経疾患 I・II, 神経疾患患者の看護と対応
 - 4) ~ 6) 消化器癌(食道癌, 胃癌, 大腸癌, 肝臓癌)の標準治療
 - 7) ~ 9) 腰部脊柱管狭窄症, 脊椎・脊髄損傷, 四肢骨折・外傷の治療と管理
 - 10) ~ 12) 心不全、不整脈の病態と治療
 - 13) ~ 15) 循環器疾患の病態と治療
 - 16) ~ 18) 糖尿病の管理
 - 19) ~ 20) 老化と老年病
-

【評価】

筆記試験／口頭試験 (90%)、出席状況 (10%)
橋爪担当 試験 (80%)、出席状況 (10%)、参加態度 (10%)

【教科書】

講義プリント等

[内科学関係]

浅野嘉延、吉山直樹 編「看護のための臨床病態学」南山堂

【推薦参考図書】

[神経外科学関係]

北村聖編：臨床病態学 I 第2版 ニューヴェルヒロカワ 2013

馬場元毅：絵でみる脳と神経 医学書院 2018

[消化器外科学関係]

すべて講義担当者が資料を用意する。希望者には資料のCDを配布する。

[整形外科学関係]

久保俊一他編：「図解整形外科」 金芳堂 2006

中村利孝、松野丈夫監修：「標準整形外科学第13版」医学書院 2016

土方浩美編：「整形外科看護アップデート」照林社 2002

大谷清、角谷ヨシ子：「脊髄損傷患者のケア ベッドサイドナーシング」医学書院 1991

[内科学関係]

下条文武、斉藤康編：「ダイナミックメディスン3」西村書店 2003

【概要・目標】

終末期の患者とその家族に対するケアの必要性和特殊性を理解する。終末期には救命を目的とした医療ではなく、患者・家族の QOL(Quality of life)の向上をはかる医療を提供するべきである。「緩和ケアとは生命にかかわる疾患に直面している患者と家族の痛みやその他の身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題を予防し、評価し治療することで生活の質を改善する」という WHO (世界保健機構) の定義に基づいて緩和ケアを理解する。また終末期に出現する諸症状を理解し、正しい評価を行い、治療の計画・実施を行うための方法論を学ぶ。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 終末期医療／緩和医療の概説および歴史
- 2) 末期患者特にがん患者の持っている Total Pain (全人的苦痛) について
- 3) 終末期患者に出現する症状
- 4) 癌性疼痛、適正な医療用麻薬の使用
- 5) 終末期医療／緩和医療における患者・家族の心理とそれに対する援助
- 6) 終末期における療養場所
- 7) 死別に伴う家族の悲嘆等に対するケア
- 8) 死生学
- 9) 終末期の倫理と医学的決断過程(厚生労働省終末期ガイドラインについて)
- 10) チーム医療の形成と重要性を認識する

【評価】

筆記試験

【教科書】

特にありません

【推薦参考図書】

Kim K. Kuebler, Patricia H.Berry, Debra E.Heidrich 著 鳥羽研二監訳「エンドオブライフ・ケア 終末期の臨床指針」医学書院 2004

世界保健機関編 武田文和訳 「がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケアーがん患者の生命へのよき支援のために」金原出版株式会社 1993

世界保健機関編 武田文和訳 「がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法—第2版」金原出版株式会社 1996

柏木哲夫 今中孝信監修 「死をみとる1週間」 医学書院 2002

【その他】

メールアドレス totoro@wakayama-med.ac.jp

【概要・目標】

性と生殖Ⅰで学んだ知識をもとに、母性看護を実践するために必要な基礎的知識と看護技術を習得する。

1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期のアセスメントに必要な知識と看護技術を学ぶ。
2. 母乳育児支援の基本的な知識について理解する。
3. 母性看護過程の特徴について理解し、事例に添って看護過程を展開する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 母性看護学の理論と実践を支える概念・妊娠期の看護
- 2) 分娩期の看護
- 3) 産褥期の看護
- 4) 産褥期の看護
- 5) 新生児期の看護
- 6) 母性看護過程事例展開 (演習) 必要な情報収集と情報の整理・アセスメント
- 7) 母性看護過程事例展開 (演習) 看護課題の抽出と看護計画の立案・実施・評価
- 8) NICU・新生児看護の実際 NICU 師長
- 9) 産科看護の実際 周産期師長
- 10～12) 母性看護技術 (演習) 妊娠期・分娩期・産褥期・授乳の援助・看護過程の展開
- 13～15) 母性看護技術 (演習) 新生児期・リラクゼーション技術・看護過程の展開

【評価】

筆記試験 (80%)、授業への参加態度と提出物 (20%) から総合的に評価する

【教科書】

板倉敦夫他 「母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護」

【推薦参考図書】

その他、適宜紹介する。

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

健康障害が慢性的経過をたどる小児と疾患を持つ高齢者の生活環境や疾患の特性を理解し、家族を含めた治療環境の調整や自己管理へ導く看護について学修する。

1. 慢性的に経過する小児と高齢者の疾患の特性を理解する。
2. 慢性的に経過する疾患を持ちながら生活している小児や高齢者とその家族の特性を理解する。
3. 慢性的に経過する疾患を持ちながら生活している小児や高齢者とその家族に対する看護の基本的な知識及びケア技術を学修する。
4. 小児と高齢者の治療環境の整備及び自己管理への導く看護について学修する。
5. 疾患を持ちながらも生活の質の向上を目指す小児と高齢者の看護について学修する。
6. 慢性的な経過をたどる疾患をもつ子どもと高齢者の看護を事例から学修する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 慢性期にある子どもの看護 総論
- 2) 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護
- 3) 慢性期にある子どもの看護 各論(主な子どもの慢性疾患に関する看護)
- 4) 療養中の子どもの安全を守る看護
- 5) 慢性疾患を持つ高齢者の看護 (総論)
- 6) ～12) 慢性疾患を持つ高齢者と家族への看護
- 13) 摂食・嚥下障害を持つ高齢者と家族への看護
- 14) ～15) 認知症高齢者および家族への看護

【評価】

小児看護：試験 (90%)、出席状況・授業への参加態度 (10%)

老年看護：試験 (90%)、出席状況・授業への参加態度 (10%)

評価責任者：服部園美

【教科書】

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

【推薦参考図書】

北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

【その他】

慢性期看護論Ⅲ

辻	あさみ	教授
上田	伊津代	講師
山口	昌子	講師
池田	敬子	准教授
川井	美緒	助教
寒川	友起子	助教
楠岡	雅	助教

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

慢性的に経過する健康障害を有し、生涯にわたった生活のコントロールを必要とする成人期の人々をモデルとして、健康障害が生活環境と相互に影響しながら生じることを理解し、その障害のアセスメント方法やセルフマネジメントを推進する看護方法について学習する。また、疾病の認知と受容、ソーシャルサポート、QOLの向上につながる看護援助の方法について学習する。

1. 慢性的な健康障害をもつ人々の機能障害と生活との関連を理解する。
2. 慢性的な健康障害をもつ人々のセルフマネジメント支援に必要な知識・技術を習得する。
3. 慢性的な健康障害をもつ人々や家族のQOLを維持・向上させる看護の知識を習得する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ~ 9) 慢性的な健康障害をもつ人々への看護 (成人：辻、上田、山口、楠岡)
呼吸器疾患をもつ人々の看護
消化器疾患をもつ人々の看護
血液・造血器疾患をもつ人々の看護
放射線治療を受ける人への看護
がん化学療法を受ける人への看護
- 10) ~ 12) 慢性的な健康障害をもつ人々の看護過程の展開
(成人：辻、上田、山口、池田、川井 寒川、楠岡)
- 13) ~ 15) 慢性的な健康障害をもつ人々の看護技術演習 (1~3)
(成人：辻、上田、山口、池田、川井、寒川、楠岡)

【評価】

筆記試験 80%、演習 (事前・事後レポートを含む) 15%、授業への取り組み 5%

【教科書】

- | | | |
|-----------------------|-----|-----------|
| 大西和子編集；成人看護学「成人看護学概論」 | 第2版 | ヌーヴェルヒロカワ |
| 鈴木志津枝編集；成人看護学「慢性期看護論」 | 第3版 | ヌーヴェルヒロカワ |
| 野崎眞奈美編集；成人看護学「成人看護技術」 | 第2版 | 南江堂 |

【推薦参考図書】

講義の中で提示する。

急性期看護論Ⅱ

井上みゆき 教授
檜葉雅人 講師
早川博子 助教

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

(小児看護)

急性期看護論Ⅰで学んだ症状を緩和する看護を基盤にし、急性疾患・外傷・手術などにより、急性経過をたどる子どもの看護と技術について学修する。

(精神看護)

急性期にある「精神障がい」を持つ人への看護のあり方を学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

(担当)

- | | |
|--|-------|
| 1) ~6) 急性疾患・外傷・手術などにより、急性経過をたどる子どもへの看護技術 | 井上 |
| 1) 急性期とは 感染症をもつ子どもの看護 | |
| 2) 手術を受ける子どもの看護 | |
| 3) ~6) 小児特有の看護技術演習 | |
| ・ 子どもの点滴固定・血液検査処置に関する看護 | |
| ・ 尿検査(採尿パック)・与薬に関する看護 | |
| ・ 髄液検査・腰椎検査・エピペンに関する看護 | |
| 7) ~15) 「精神障がい」を持つ人への看護 | 檜葉・早川 |
| 7) 精神看護の考え方 | 檜葉 |
| 8) 精神科チーム医療と看護 | 檜葉 |
| 9) 精神科急性期入院における看護 | 檜葉 |
| 10) 「自殺防止」における看護職の役割 | 檜葉 |
| 11) 「行動制限」における看護 | 檜葉 |
| 12) 看護の展開〈統合失調症①〉 | 早川・檜葉 |
| 13) 看護の展開〈統合失調症②〉 | 早川・檜葉 |
| 14) 看護の展開〈気分[感情]障害①〉 | 早川・檜葉 |
| 15) 看護の展開〈気分[感情]障害②〉 | 早川・檜葉 |

【評価】

小児：試験(小テスト含む) 70% 課題 20% 授業への参加状況 10%

精神：筆記試験 60% 課題提出物 40%

評価責任者：井上みゆき

【教科書】

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

武井麻子他「系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学①および②」医学書院

【推薦参考図書】

中井久夫「看護のための精神医学」第2版 医学書院 2004

武井麻子「精神看護学ノート」第2版 医学書院 2005

【その他】

急性期看護論Ⅲ

池田敬子	准教授
辻あさみ	教授
上田伊津代	講師
山口昌子	講師
川井美緒	助教
寒川友起子	助教
楠岡雅	助教

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

成人期の人々の健康に急激な変化が生じる周手術期に焦点を当て、周手術期における身体的、あるいは心理・社会的な状況の特徴を理解し、その状況に応じた援助方法について学修する。特に、各機能障害をもつ手術患者が、麻酔や手術侵襲に対して順調な回復過程を辿るために、どのような術前・術後の看護が必要なのかについて学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

- 1)～9)脳神経系に疾患をもつ人の周手術期看護 (成人：池田、川井、寒川)
呼吸器系に疾患をもつ人の周手術期看護
循環器系に疾患をもつ人の周手術期看護
消化器系に疾患をもつ人の周手術期看護
性・生殖器系に疾患をもつ人の周手術期看護
- 10)～12) 周手術期にある患者の看護過程の展開 (演習)
(成人：池田、辻、上田、山口、川井、寒川、楠岡)
- 13)～15) 急激に変化する状況にある人の看護技術演習(1)～(3)
(成人：池田、辻、上田、山口、川井、寒川、楠岡)

【評価】

筆記試験 (80%)、演習 (15% 事前・事後レポートも含む)、授業に取り組む姿勢 (5%)

【教科書】

池松裕子編集：成人看護学「急性期看護論」ヌーヴェルヒロカワ
雄西智恵美編集：成人看護学「周手術期看護論」第3版 ヌーヴェルヒロカワ
野崎真奈美編集：成人看護学「成人看護技術」第2版 南江堂

【推薦参考図書】

山勢博彰編集：成人看護学「救急看護論」ヌーヴェルヒロカワ
矢永勝彦編集：系統看護学講座「臨床外科看護総論」医学書院
北島政樹編集：系統看護学講座「臨床外科看護学各論」医学書院
その他、講義の中で提示する。

【その他】

終末期看護論

井上みゆき 教授
辻あさみ 教授
服部園美 准教授
藤森由子 非常勤講師

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

終末期にある人々のQOLの維持・改善、倫理的問題など、ライフステージの特徴をとらえながら、家族を含めた終末期看護の知識・技術・態度について学ぶ。

- 1) 終末期看護の概念について理解する。
- 2) 終末期にある小児とその家族に対し、「その子どもらしく生きるため」のケアについて学修する。
- 3) 終末期にある成人期の人とその家族の特徴を理解し、その人らしさを尊重した人生の最期を過ごせるよう支援する看護について学ぶ。
- 4) 人生の最終段階にある高齢者が、その人らしく人生の最後まで尊厳をもって生きることを支えるケアについて学修する。
- 5) 終末期にある精神疾患をもつ人の状態像やセルフケアの特徴とその看護について学ぶ。

【授業内容のスケジュール】**(担当)**

- | | | |
|--------|--|----|
| 1) | 終末期看護にかかわる概念：終末期とは何か、緩和ケア、意思決定、倫理原則 | 井上 |
| 2～3) | 小児期にある終末期患者の看護 その子どもらしく生きるために | 井上 |
| | 2) 子どもの死の概念の発達と子ども・家族・医療者の協働意思決定 | |
| | 3) 子どもの緩和ケアに関する事例検討 | |
| 4～10) | 成人看護学における終末期看護、終末期にある成人期の人とその家族の特徴と看護
終末期にある患者・家族の希望を支える看護、告知とインフォームドコンセント、
意思決定支援、症状マネジメント、緩和ケア | 辻 |
| 11～13) | 高齢期にある終末期患者の身体心理社会的側面の変化
病院から在宅への移行期におけるケア、高齢者向け施設におけるケア
臨死期のケア・エンゼルケア | 服部 |
| 14～15) | 精神疾患を持つ人の身体合併症と看護
精神疾患を持つ人の終末期における問題と看護 | 藤森 |

【評価】

小児：レポート 50%、事前学習課題・出席状況・参加状況 50%
成人：試験 90%、出席状況・参加状況 10%
老年：試験 90%、出席状況・参加状況 10%
精神：試験 90%、出席状況・参加状況 10%
評価責任者：辻あさみ教授

【教科書】

小笠原和枝編集：エンドオブライフケア看護学 基礎と実践、ヌーヴェルヒロカワ、2018

【推薦参考図書】

講義の中で適宜紹介する。

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

公衆衛生看護活動の対象の特性、ライフステージ別、健康レベル別にどのような公衆衛生看護活動が展開されているかを学ぶ。

- 1) 公衆衛生看護活動における対象の特性を理解する。
- 2) ライフステージ別、健康レベル別の公衆衛生看護活動を理解する。
- 3) 病院・施設における看護と地域における看護の継続、連携のあり方について理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 公衆衛生看護活動の基本と対象のとらえ方
- 2) 公衆衛生看護活動の展開方法
- 3) ～ 4) 母子保健活動
- 5) 成人・高齢者保健活動
- 6) 難病保健活動
- 7) ～ 8) 感染症保健活動
- 9) ～ 10) 精神保健福祉活動
- 11) ～ 12) 健康危機管理
- 13) 公衆衛生看護管理
- 14) 公衆衛生看護活動の現状と課題
- 15) 病院・施設における看護と地域における看護の連携

【評価】

筆記試験 (90%)、出席状況および授業への参加態度など (10%) により評価する。ただし、筆記試験は6割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第3版」日本看護協会出版会
宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学各論1第3版」日本看護協会出版会
宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学各論2第3版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

適宜紹介する。

【その他】

(後期) 3年次・保健師コース必修

【概要・目標】

本科目は公衆衛生看護実習Ⅰと連動して展開する。地域住民の健康の向上を目指し、既存資料や実習で収集した地域の健康に関する多角的な情報をもとに地域診断を行うことで健康課題を明らかにし、その健康課題の解決・改善に向けた活動計画を立案する。これらの一連の過程を通して、地域生活集団（コミュニティ）を対象とした地区活動の展開方法を学ぶ。

- 1) 地域の健康課題を抽出するための情報収集の方法を理解する。
- 2) 収集した情報のアセスメント方法について理解する。
- 3) 地区活動の一環として実施する家庭訪問の技術について理解する。
- 4) 地域の健康課題の解決・改善に向けた活動計画・保健計画のあり方、計画の策定方法について理解する。
- 5) 地域生活集団（コミュニティ）の健康課題に対応する地区活動の展開方法を理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 地区活動の展開1（地区活動の目的・方法、基本的な考え方）
- 2) 地区活動の展開2（地域診断の考え方、方法）
- 3)～5) 地域診断（演習：既存資料からの情報整理、実習での情報収集計画作成）
- 6)～7) 家庭訪問
- 8)～11) 地域診断（演習：実習で収集した情報の整理とアセスメント）
- 12) 地区活動の展開3（活動計画立案）
- 13)～15) 活動計画立案・発表（健康課題に対応する保健事業・活動の計画作成）

【評価】

筆記試験（60%）、演習内容・記録（30%）、出席状況および参加態度など（10%）により評価する。ただし、筆記試験は6割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第3版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

佐伯和子編著 「地域看護アセスメントガイド第2版」医歯薬出版株式会社

【その他】

(前期) 3 年次・必修

【概要・目標】

地域で生活する人々の健康課題に即し、個人・集団を対象に展開する公衆衛生看護活動の基盤となる理論・方法を学ぶ。

- 1) 保健指導の目的・方法を理解する。
- 2) 地域における個人・家族および集団への支援の基本を理解する。
- 3) 保健行動の変容について理解する。
- 4) 住民の参加と地区組織活動について理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 公衆衛生看護の支援技術の特性
- 2) 保健指導
- 3) ～ 4) 健康相談
- 5) ～ 6) 健康診査
- 7) ～ 8) 健康教育
- 9) ～ 10) 家庭訪問
- 11) ～ 12) グループ支援
- 13) ～ 14) 地域ケア体制づくり
- 15) 総括

【評価】

筆記試験 (60%)、演習内容・記録 (30%)、出席状況および参加態度など (10%) により評価する。ただし、筆記試験は 6 割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第 3 版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

村嶋幸代編集「公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社

【その他】

(前期) 3年次・保健師コース必修

【概要・目標】

地域における個別支援からグループ支援への展開、住民が健康課題を認識し主体的に解決に取り組むための支援について学ぶ。また、地域生活集団（コミュニティ）の健康課題に対応する地区活動の展開方法として、住民や関係職種・関係機関との連携・協働による地域ケア体制づくりの活動について学ぶ。

- 1) 地域における個別支援からグループ支援の展開について理解する。
- 2) 地域における集団への健康教育の基本を理解する。
- 3) 地域の健康課題に即した健康教育の計画から実施・評価までの一連の過程を理解する。
- 4) 地域ケア体制づくりにかかわる保健師の役割について理解する。
- 5) 住民や関係職種・関係機関との連携・協働の方法を理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 保健師活動技術の特徴
- 2) ～ 3) 家族相談支援技術
- 4) ～ 5) 家庭訪問による支援技術
- 6) 健康教育による支援技術
- 7) ～ 13) 健康教育演習
- 14) 保健活動評価
- 15) 事業化・施策化

【評価】

筆記試験（60%）、演習内容・記録（30%）、出席状況および参加態度など（10%）により評価する。ただし、筆記試験は6割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第3版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

村嶋幸代編集「公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社

【その他】

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

在宅療養者と家族を支える在宅看護の方法と実際について学ぶ。さらに、保健医療福祉制度や保健医療福祉機関との連携、および医療機関から在宅への継続看護の意義、地域包括ケアにおける看護の役割について学ぶ。

1. 日本における在宅看護の発展過程について理解する。
2. 在宅看護の対象とそのニーズの特徴について理解する。
3. 在宅看護過程の展開と看護サービスの質の管理について理解する。
4. 保健医療福祉機関との連携の意義、保健医療福祉制度について理解する。
5. 在宅移行支援および継続看護、地域包括ケアにおける看護の役割を理解する。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 在宅看護の概念、社会的背景および日本における在宅看護の変遷
- 2) 在宅看護の基盤、訪問看護ステーション
- 3) 在宅看護を必要とする療養者と家族の特徴
- 4) 地域包括ケアシステムにおける在宅看護
- 5) 地域療養を支える保健医療福祉制度
- 6) 対象に応じた在宅看護
- 7) 在宅看護過程の展開
- 8) 在宅療養者と家族の捉え方 1 (演習)
- 9) 在宅療養者と家族の捉え方 2 (演習)
- 10) 在宅における援助技術—測定・医療的ケア (演習)
- 11) 病院における地域連携の実際 (患者支援センターより)
- 12) 在宅療養者と家族の QOL (演習)
- 13) 在宅における援助技術—生活ケア (演習)
- 14) 在宅医療と訪問看護 (在宅医より)
- 15) 在宅における看護管理、在宅看護の課題と展望

【評価】

筆記試験 (90%)、出席状況および授業への参加態度など (10%) により評価する。ただし、筆記試験は 6 割以上の得点を必要とする。

【教科書】

臺有桂他編「地域療養を支えるケア」在宅看護論①第 6 版メディカ出版

【推薦参考図書】

臺有桂他編「地域療養を支える技術」在宅看護論②第 1 版メディカ出版
渡辺裕子監修「家族看護を基盤とした在宅看護論」日本看護協会出版会
押川眞喜子監修「写真でわかる訪問看護」インターメディカ
宇都宮宏子他編「看護がつながる在宅療養移行支援」日本看護協会出版会

【その他】

【概要・目標】

看護管理(マネジメント)の基本的概念を理解し、安全で質の高い看護サービスが提供できるために必要な知識を多角的に学習する。

1. 看護管理(マネジメント)、看護サービス管理に関する基礎的概念と看護管理過程について学ぶ。
2. 看護管理(マネジメント)に必要な知識と技術について学ぶ。
3. 看護における人的資源活用論について学ぶ。
4. 現代の健康観連産業において看護職が果たす役割とそれを効率的・効果的に実現するための看護管理の在り方について考える。

*臨地実習を通して、学習を深める。

【授業内容・スケジュール】

- 1) A. 看護管理(マネジメント)の概要
(1) 看護管理の基本概念 (2) 看護管理過程 (水田)
- 2)～4) B. マネジメントに必要な知識と技術 (水田)
(1) 組織のしくみとマネジメント (2) リーダーシップとフォロワーシップ
(3) モティベーション (4) 組織の調整・変革
- 5)～6) C. 保健看護サービスを取り巻く保健医療福祉制度と政策 (角谷)
(1) 医療制度の現状と看護行政、看護政策 (2) 介護保健制度と看護サービス
- 7)～8) D. 医療安全と情報管理 (角谷)
(1) リスク・マネジメントとセーフティマネジメント (2) 情報管理
- 9)～10) E. 人的資源活用 (角谷)
(1) 現任教育とキャリア開発 (2) 人材マネジメント
- 11)～14) F. 看護管理過程の実際 (角谷)
(1) 組織のアセスメント (2) 組織の目標と計画化
(3) 看護提供体制の組織化 (4) 行動化(指揮) (5) 統制(サービスの評価)
- 15) G. これからの保健看護管理の課題 (水田)

【評価】

レポート(100%)

【教科書】

系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理, 医学書院, 2018

【推薦参考図書】

- 井部俊子監修: ナースのための管理指標 MaIN, 医学書院, 2010
ステファン・P・ロビンス: 組織行動のマネジメント, ダイヤモンド社, 2009
上泉和子: 看護ユニットマネジメント, 医学書院, 2006
角田由佳: 看護師の働き方を経済学から読み解く, 医学書院, 2007
松村啓史: ナイチンゲールに学ぶときめきの経営学, メディカ出版, 2007

【その他】

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

保健看護学を学んだ者として自己教育能力や探究精神を高めていけるように自ら動機づけをし、明らかになっていない現象に対して科学的に分析できるようになることが大切である。この講義では、保健看護研究を实践する上で必要となる量的・質的研究の方法、文献の活用、計画書の作成、データ収集と統計処理、論文の作成、倫理規範などに関する知識を深めるとともに、研究の各段階の具体的な進め方の実際について修得できるようにする。

【授業内容のスケジュール】

(担当)

1) 保健看護研究総論	宮 井
2) 研究テーマと仮説の設定	宮 井
3) 研究計画の立案、計画書作成	宮 井
4) 量的研究の方法(1)：研究方法とデザイン	宮 井
5) 量的研究の方法(2)：対象集団の選定	宮 井
6) 量的研究の方法(3)：データの収集方法(実験研究・準実験的研究・調査研究)	宮 井
7) 量的研究の方法(4)：データの統計処理と図表の作成	宮 井
8) 質的研究の方法(1)：看護における質的研究の必要性・意義	岩 村
9) 質的研究の方法(2)：質的研究の種類と特徴	岩 村
10) 質的研究の方法(3)：データの収集方法	岩 村
11) 質的研究の方法(4)：データの分析方法	岩 村
12) 研究成果のまとめと論文作成	宮 井
13) 文献の活用と方法	宮 井
14) 文献検索の演習(医学中央雑誌などを用いて)	宮 井
15) 研究の倫理規範	宮 井

【評価】

受講態度(10%)、小テスト(10%)、レポート(10%)、筆記試験(70%)で総合的に判断する

【教科書】

授業時に資料を配付する

【推薦参考図書】

坂下玲子 著「系統看護学講座 別巻 看護研究」医学書院 2016

大木秀一 著「基礎からわかる看護疫学入門―第2版」医師薬出版株式会社 2012

グレッグ美鈴 他編著「よくわかる質的研究の進め方・まとめ方―第2版」医歯薬出版株式会社 2016

【その他】

連絡先：iwamura@wakayama-med.ac.jp (岩村)

miyain@wakayama-med.ac.jp (宮井)

3年次（後期）～4年次（通年）・必修

【概要・目標】

この科目は「保健看護研究Ⅰ」で学んだ基礎的な知識や研究手法を生かして、自らの疑問や関心を解決する方法を取得するものである。研究は知識や結果だけでなく、研究過程そのものが重要である。種々の日常場面での素朴な疑問や関心を研究課題に高める観察力と着想、その課題に最もふさわしい研究手法の選択、研究計画書の作成、計画的な実施、などの過程を学ぶ。さらに、研究結果に考察を加え、学内やあるいは学外での発表、さらにそれをふまえた報告書や論文の作成ができ、ひいてはそれが将来の職場や社会で活かせるようになることを目的としている。

【授業内容のスケジュール】

授業はゼミナール形式で行う。

1. 研究課題の決定
2. 研究計画書の作成
3. 研究の実施
4. 研究のまとめ
5. 報告書や論文の作成

【評価】

出席状況、研究態度、報告書により総合的に判断する。

【教科書】

特になし

【推薦参考図書】

必要があれば適宜紹介する。

【その他】
